

## 第 4 回 高遠町地域協議会会議録

開催日	令和2年1月20日(月)					
開催時間	開 会	午後6時30分	閉 会	午後8時17分		
開催場所	高遠町文化センター2階視聴覚室					
委員の出欠  出席14名 欠席6名	番号	委員氏名	出欠	番号	委員氏名	出欠
	1	奥田 一芳	欠	11	保科 浩一	出
	2	伊藤 哲雄	出	12	矢澤 清子	出
	3	北原 将充	出	13	安井 かほる	出
	4	北原 房子	出	14	黒河内 俊	出
	5	伊藤 岩雄	出	15	浦野 真吾	出
	6	西村 博	出	16	西村 一則	欠
	7	北村 英幸	欠	17	山岸 加代子	出
	8	大塚 治男	欠	18	北原 正治	欠
	9	武井 隆子	出	19	伊藤 茂	出
	10	山岸 愛里	欠	20	今枝 一	出
署名委員	15番	浦野 真吾		17番	山岸 加代子	
委員以外 の出席者  出席6名	高遠町総合支所長 山崎大行、同総務課長 柴田妙子、同総務課主査 伊藤智美、 同主査 田辺恵一 伊那市議会議員 飯島 進、宮原英幸					
会議事項	協議事項 (1) 高遠町総合支所庁舎建設に係る小委員会の報告について (2) 地域公共交通の維持・活性化について					
会議提出資料	1 高遠町総合支所庁舎建設に係る小委員会の報告 2 地域公共交通の維持・活性化について				【資料 1】 【資料 2】	

1 開会（午後6時30分） 進行 黒河内副会長

2 あいさつ 伊藤会長  
山崎総合支所長

3 新委員自己紹介 山岸加代子委員

4 欠席委員の報告 1番 奥田一芳委員 7番 北村英幸委員 8番 大塚治男委員  
10番 山岸愛里委員 16番 西村一則委員 18番 北原正治委員

5 会議録署名委員の指名

会議録署名委員に「15番 浦野真吾委員 17番 山岸加代子委員」を指名

6 協議事項

(1) 高遠町総合支所庁舎建設に係る小委員会の報告について

高遠町総合支所庁舎建設に係る小委員会 黒河内副委員長

小委員会では、最小限の予算で考える現実的な総合支所と、潤沢な予算で考える理想的な総合支所を考える2つのグループに分かれて意見を出していただいた。基本的な考え方は同じであったが、後者のグループはより具体的な肉付けがされた意見が出されている。場所については1か所にまとめることができず、旧庁舎現在地、文化センター周辺、高遠消防署付近の3カ所が候補に挙がっている。小委員会委員の皆さんそれぞれの立場や、団体からの意見をいただいてあるので、絞り切ることはできなかった。

(委員) 庁舎の位置について、周辺の道路整備・バリアフリーの関係が報告に載っていないが。

(支所長) 庁舎の位置が決まれば、そこへの取り付け道路が整備されるのは当然のこと。道路が条件でそこへ建設する選択ではないと考え、特筆しなかった。防災、バリアフリー、インフラ関係も改めて記載をしなかった。

(委員) これから市へこの報告をし、具体的な検討委員会を作って検討を始めましょうということになるかと思うが、この資料1だけが参考になるのか、以前市に提出した研究報告書も全部含めて検討材料になるのか。

(会長) 前の報告書をもとに小委員会で絞り込んだことになる。地域協議会としては資料1をもとに報告としたい。

(委員) 前に提出した膨大な研究報告書だとつかみどころがなく動き出せないから、庁舎建設の動きを早めるために地域協議会からの報告をあげていくことになったと理解している。計画が具体的になってきたときに、どんな意見があったのか研究報告書も参考資料にさせていただけるのか。

(支所長) 当然報告書を市長へ伝えてあるし、参考にさせていただくという回答をいただいてあるので、これから進んでいく過程の中で、報告書の意見についてはもう一度見直しがされていくことと思う。

(会長) 一番の問題は庁舎の位置についてかと思う。3カ所が報告に載っているが、地域協議会の中でも完全に絞り込めないのでは。それぞれメリットデメリットあるが、市と協議する中で絞り込んでいくことになると思う。

(支所長) 1年かけてこのメンバーで団体や地域の声を聞いていただいて報告書を作った。たくさんの声の中から小委員会の中でこれだけに絞り込んでいただいた。この他に、どうしても載せたいという意見があったらいただきたい。

(委員) この報告書を出して、あとは市の検討組織に場所の選定をお任せすることになるのか。

(会長) 市へ丸投げというわけにはいかないし、そうではいけない。地域もかかわっていかねばならないと考える。

(支所長) ここを柱に考えていってほしいということなので、ここに決まるとも限らない。別の候補地が上がるかもしれない。候補地を比較し、ランク付けをしたうえで場所を決めていくことが早道かと思う。場所決めが大きなウエイトを占めてくるので、協議のあり方、持ち方について検討を慎重に進めていくことが大事。

(委員) 小委員会では、建てる場所については、小委員会委員それぞれの立場があつて絞り込めなかつ

た。この後絞り込むことができるのか。

(支所長) 地域協議会として絞ることができるなら1つにまとめていただきたいが、それが高遠町の総意かという、それは難しいという意見だった。

(委員) 場所の選定が地域協議会で決められないとしたとき、市の判断はどうなるのか。どこかの組織で話し合っただけで進めていかななくてはならないのか。

(支所長) 窓口は地域協議会となるだろう。建設の委員会となると、他にもっと参加していただく人達が出てくるかもしれないので、この場でこうしましょう、と高遠の総意としてまとまっていくかという違ってくる場面があるかと思う。

(委員) 高遠地区の皆さんは高遠地区に建ててもらいたいという意見を持っている。場所については難しい問題で、どの候補地が1番に出てきても、これが住民の総意だと思う人がどのくらいいるかは自信がない。自分は地域協議会に参加していて様子がわかるが、今こういう議論が進んでいることを一般に広く周知する必要がある。

(支所長) そこが決まらないうに進んでいかない。地域の皆さんの思いが一つになるように進めたい。小委員会でも一番の悩みの種。ここでの取り組みの過程も、各団体での委員さんの報告、それ以外の方は地域協議会だよりでしか届かない。ここでの議論も、なかなか地区の皆さん全員に理解してもらうことは難しい。

(委員) 立地場所をどう決めるか。小委員会なりで絞り込むしかないのか。あるいは投票か。どこかで決めなければならない。

(支所長) どうしてもここがいい、という強い思いをお持ちの方がいる。例えば、地域協議会で1つに決めろ、となれば協議会の中でどういう形で決めていくのか、恐らくアンケートをとっても、1つにまとまりようはないと思われるので、決まった以上は協力してもらうということを確認の上、進んでいくしかない。

(会長) 住民への周知が大事と思う。委員それぞれ各団体へ説明をいただきたい。地域協議会だよりもあるが、委員から説明いただくことが一番だと思うのでご協力をお願いしたい。

(委員) 周知するときに、どこまで話していいのか。資料をコピーして配ってもよいのか。

(会長) 会議は公開されているので、資料のコピーも問題ない。

(委員) 文化センター周辺といったときに、場所が漠然としている。具体的にどの辺という場所は示せないのか。

(副会長) 文化センター周辺は公用地であり、土地の取得に費用が掛からないということも候補の一つの要因だった。消防署の周辺は土地の収用をしなければならないという課題がある。旧庁舎前は一部個人の土地もある。私たちだけでは決めかねることが大きい。候補地を市としてどう考えるのか投げかけをするしかしょうがないと思う。

(委員) 庁舎の検討当初から、私たちの意見はどこまで権限があるのか、決めることができるのか、そういう議論をした覚えがある。地域住民の考えをまとめ上げる、その段階で土地はどうするとか、住民の賛同を得るにはどうするとか、そういう具体的な話は市の中で検討組織を作ってスタートしてくれるというのが市長の答えだった。そこが核となって進めていくわけで、地域協議会ではこう意見があるということ吸い上げて、早く建設委員会をスタートしてもらうことが焦点。

(会長) 議員のお二人から意見をいただきたい。

(議員) 関心事は位置の問題で、大方3つの候補が上がったということなので、市の検討委員会を作って、市としての考え方をまとめていってもらわなければならない。住民の希望に最大限沿うような形でやる方向に、地域協議会等と意見を交わしながらある程度絞っていく、そういうやり方をしているか難しい。長期にわたって使っていく支所になるはずなので、長期的な視点や防災や利便性を中心に、場所を決めていくようになると想像する。

(議員) 高遠町に今ある公的な機関は、高遠町地域協議会と区長会しかない。地域協議会の持つ意味は非常に重い。高遠の中で意見がまとまればいいが、まとめきれない状態であれば、最終判断は予算の

編成権・執行権を握っている市長が決めるようになるか、という感覚を持っている。今の段階では、この地域協議会は多様な意見をまとめ上げるまでしかできないのでは。委員の皆さんは各団体へフィードバックしていると思うので、住民の多くには今の地域協議会の内容は周知されているとは思いますが、憶測が憶測を呼ぶことが一番怖いので、そこは気を付けないといけない。

(会長) 小委員会の報告について、地域協議会の決定としてお決めいただいてよろしいか。

～異議なし

(会長) この結果について、市へ報告をする形になるが、市長へ報告とするのか、建議とするのか、ご協議いただきたい。

(委員) 早く総合支所を立て直すことを考えれば、地域協議会ではとても丁寧に協議をしてきているので、それを踏まえて、住民説明会のようなものも開催していかないと、スピードがない。2年経っても、もしかして何も変わっていないのではないかと思われる。場所が一番関心のあるところなので、順番を決めるのも難しいが、誰かがどこかで決断をしないと、議論が深まらないのかもしれないと思う。新しい地域協議会委員になるとまた一から説明しなければならない。今の委員のうちに、とも思う。乱暴な意見ではある。

(会長) 小委員会の結果については、来年度の委員さんに引き継いでまた一から議論してもらおうということではなく、ここで一区切り結果として報告をしなければいけないと思っている。結果報告だけにとどめるのか、早く庁舎建設の議論を進めて、庁舎の取り壊しの希望を加えた中で建議とするのか。

(支所長) 例えば3つの位置について、優先順位を付けたらいいのでは、というご意見。小委員会では、いろんな意見があって順位はつけられないという意見だったが、この協議会として、優先順位を付けたほうがいいのかという意見が多かったら付けていくべきだし、難しければ3つを意見として挙げていくことになる。

(委員) 本来は順位を付けるべき。ただ、思いの強い人たちが多くの中で、それをどう判断するか。ここで決めたことを納得してもらえるのか。そこさえ納得してもらえれば決められるし、決めたほうがこの後のスケジュールはスムーズかと思う。

(委員) 前回の小委員会では3カ所の中でメリットデメリットについてはあえて触れずに絞り込んだわけだが、この3カ所のメリットデメリットをグループでまとめたらどうか。順位を付けるにしても、これがあるって決められることだと思う。

(支所長) 小委員会の設置の目的は、たくさんの意見を一から検証していくのは大変なので、そこそこまとめ、選抜した小委員会に任せよう、ということだった。小委員会では、やっぱりまとめられず、主な意見についてはこうであったという報告がされている。あと残り2か月の間で、メリットデメリットまでまとめていく必要があるのか。地域協議会として立ち上げた小委員会での結論である。ここで2年間かけて、今の任期の中でまとめたものを市へ伝えていくことも成果として残していく必要がある。懸念は、メリットデメリットは何にとってなのか、結論が出ないのでは。

(委員) 小委員会で検討し、まとめていこうという趣旨で小委員会を立ち上げたわけなので、意見を尊重してほしい。市長が最初に、市の中で検討する組織を作って、その中で進めていくと言っているので、その組織の人たちが、地域協議会にもう一回検討してくださいと投げかけてくれば検討すべき。我々が2年間かけてまとめたものがこの報告なので、それは正直に今の部分で報告すればいい。旧庁舎をいつ取り壊すのかが大きな関心事なので、それも含めたお願いとしていくことがインパクトは大きい。次の段階として、3カ所をどこに絞り込もうか、それにはもう一回地域協議会へとボールが投げられれば受け取ればいい。

(委員) 今の意見に賛成。地域協議会で絞ったものが100%採用されるわけでもない。予算を我々が預かっているわけでもない。次の検討委員会で細かく検討されるということなら、この3つを報告としていくべきと思う。

(委員) 婦人会の理事会で庁舎の建設候補地について話したところ、3年前くらいから庁舎建て替えの話があり、一番はどこに建てたいかがまとまらず今に至っていること、婦人会としては現在のところ

に建て替えたいという意見であること、3つの候補地にしたところ、また話し合っただけで決めようとなったら延び延びになってしまうことが懸念されるという意見があった。この先3つ候補を挙げたことによって、また1年話し合っただけで決めようとなるとき、高遠の住民は、本当はどっちを必要としているのか。早めに新しい庁舎を建設してもらいたいのか。この報告を受けて、場所が決まれば、それなりの工程で進んでいくと思うが、市長から、場所がまだなのだという答えになれば、早めにどこかで結果を出さなければ進まないのかな、と会での意見を聞いて思った。

(委員) 2年間で丁寧に話し合いをしてきているので、メリットデメリットは出てきていると思う。小委員会で順位をつけたものが報告として挙がってくれば、協議会で、自分の思っているところと違って、それはそれでしょうがないという気持ちもある。市町村合併をした時も住民に意思表示をしていただき、賛否あったが、今はそれなりに状況を受け入れている。結論を先送りすることのほうがデメリットが大きいと思う。早くどちらかに決めて、高遠地区とは違う結論になったとしても、それは説明して受け入れてもらっていくこともたいへんだが必要。2年間も話し合いをしているんだし、理解を得られるような形を考えていくべき。順位がつけられないとしても、例えば、消防署の方へ行くのか旧高遠町に残すのか、もう一步踏み込んだことはできないのか。小委員会でも決まらなかったから、その意見を尊重すべきだという意見が多かったら、また時間をかけて検討しなければならない。

(会長) 絞り込みをしたほうが早く進む、という声があるが、やっていきたいとなれば地域協議会として優先順位をつけるなり絞り込みをするなりしていくわけだが、他の委員の皆さんのご意見はいかがか。

(副会長) 小委員会として、皆さんからの代表として小委員会で検討して報告しているわけである。協議会で了解の上、小委員会で話し合ってきたことなので、これはこれとして進めさせていただき、次のステップとして考えるのであれば、早期に着工をしてもらおう方向に進んだほうがいいと思う。なかなか場所は決めかねるところがある。小委員会で決まったことを報告し、次のステップを考えていくほうがいいかと思うがいかがか。

(委員) 市へ報告すること云々ではなく、皆さんどこがいいと考えているか知りたい。

(副会長) 今日は全部の委員が出席していないし、そうすると優先順位がわかってしまう。

(支所長) これまで2年もかけて議論していただいているので、戻る必要はないし、これをもとに進んでいけばいいわけで、この中からどう取り上げていってもらえるのか、決まったらそこに気持ちをまとめ上げていかなければならない、エネルギーが一番かかるところがあるので、せつかくまとめた小委員会の皆さんの思いを大事にして、協議会として市への報告をこのタイミングでさせていただきたい。

(会長) 地域協議会の中で、小委員会に任せるという形で進んできた経緯もあるので、この結果を尊重する形で、これを市の方へ提出していくように進めていきたいがよろしいか。

(委員) 決まらないのでそうしていくしかしょうがない。

(会長) 早期着工とか、旧庁舎の取り壊しを建議として挙げていくという点については。

(委員) ぜひお願いしたい。あの建物が危険なので支所が仮移転をしたわけなので、早く取り壊しをしてほしい。心配だ。

(支所長) 昨年度提出した報告書の中から抽出したものを、今回早く建ててもらいたい、早く取り壊してもらいたいということのお願いなので、地域協議会からの要望、陳情というタイトルとして、市へ要求していくのが適当である。

(委員) 最初の報告書はどういう形だったのか。

(支所長) 報告書としてまとめ、報告書として提出した。それに対する回答書はない。その時の話し合いの内容を書き留めたものをまとめた。

(議員) 去年9月の一般質問で出した時も、地元の要望を聞いてできるだけ早くということしかこの段階では言えない、という話だった。地元の要望がまとめれば、早く進む可能性はある。庁内の検討委員会でやっていくという方向。

(会長) 市へは報告とともに、庁舎の早急な建て替えと旧庁舎の取り壊しを、地域協議会の総意としてお願いするかたちでよろしいか。

～異議なしとの声あり

(会長) そういった形で進めていく。市へは正副会長と支所長で報告に行くこととするがよろしいか。

～異議なしとの声あり

(会長) 正副会長、支所長とで報告する。

(支所長) 市へ提出するものについては、事務局で用意をさせていただく。早く建ててもらい、旧庁舎を早く取り壊していただきたいという2点を付け加えたものとして内容を調整し、正副会長に確認いただく。会長にお任せいただくことで了解いただきたい。

(2) 地域公共交通の維持・活性化について

総務課 田辺主査

市内の公共交通について、高遠町地区では高遠線、藤沢・茅野線、三義・長谷循環バス、高遠循環タクシーの路線が運行されている。どの路線も年々利用者が減となっている。利用者が固定されており、この特定の方々の利用がなくなることによって利用者の減となっていると考察される。また新規利用者の開拓ができていないことも利用者の減につながっている要因と思われる。利用がされないままだと、路線の廃止も考えられる。過去は高遠の町部に循環タクシーが2本走っていたが1本減となっている。路線の維持と利用者増に向けた取り組みが必要となってきている。利用者が増えない要因の一つとして、自宅からバス停までが遠く使いづらいという声もあり、交通業界ではドライバー不足も深刻化している。伊那市ではAI（人工知能）による自動配車システムを導入した「ドアツードア乗合タクシー」の運行を目指し、調査や実証実験を行っている。高遠地区でも平成31年3月に実証実験が行われている。便利なシステムではあるが、本格的な導入についてはまだまだ課題があり、今ある公共交通を維持していくことが必要である。市全体では路線ごとに「路線を守り育てる会」が設立されており、地域にとって最適な公共交通のあり方や、公共交通を維持・存続するための利用促進策の検討・実施を行っている。高遠地区では、平成28年に三義・長谷循環バス、平成29年に藤沢線が発足している。藤沢線では、買い物がしやすいように小原の食彩館へのバス停の設置が実現された。高遠循環タクシーについては、令和元年度で会の発足をしたいと考えている。高遠地区から河南地区を循環する路線であり、該当する地区の区長さん方に話をして設立に向けた事前の検討委員会として2度ほど会議を持っている。相談していく中で、地域協議会へも話をしていったほうがいいのでは、という声があり、高遠、河南地区の区長さんを中心に設立に向けた人選を進めていきたいと考えているので、地域協議会の委員の皆さんにもご承知おきいただきたい。委員の皆さん方もぜひ地域の公共交通を利用いただくよう、地域や各団体の皆様にも周知をいただきたい。藤沢線についてはバス停アートの注目を浴びている。利用者の増に向けた活動をお願いしたい。2月市報発送時に、各路線のお知らせの回覧チラシを同送する予定である。

(委員) 実際の経費を含めた損益の分岐点は。どこまで確保できれば損をしないとか。

(主査) 路線の中で、事業者が直接経営をしているところは高遠線のJRバスのみで、あとの路線は市費を投じて運営をしている。

(議員) 年間約1億円が公共交通に使われている。

(議員) AIタクシーを普及していこうという動きもあるが、それまでの間をちゃんとしたいということで、路線を守る会を設立したいということか。その辺の目的をきちんと説明しないと、唐突に市から守る会を作ります、と言ってもわかってもらえない。循環タクシーが河南地区と高遠地区しか動いていないので、三義や藤沢地区の皆さんには知られていないだろうし、停留所の位置とか、どこでどうなっているかもわからない。会の立ち上げをするのであれば、こういう目的でこういうことをやりたいとか、知恵を貸してほしいとか、きちんと説明してあげてほしい。

(主査) 市では今年度夏ぐらいから循環タクシーの路線を守る会を立ち上げる計画になっており、打ち合わせ会ということで、河南、高遠の区長さんに集まっただき、市の考えをお伝えした。また12月には高遠、河南の9区長にお集まりいただいて、本庁企画政策課の担当から経過などを丁寧に説

明してある。立ち上げについては区長さん以外の参画も必要となってくると思うので、丁寧に説明をしながら、目的をもってやっていきたい。

(会長) 守る会の立ち上げについて、協力要請があったら地域協議会の委員の皆さんもご協力をお願いしたい。

(3) その他

・高遠城下まつりについて

伊藤会長

高遠城下まつりは例年9月の第1土曜日に開催をしている。今年はオリンピック関連で伊那まつりが9月12, 13日に変更となっている。城下まつりを開催するのかもしれないのか、するとすればどんな日程とするかのアンケートが関連団体にされている。関連行事として、伊那市総合防災訓練が8月30日で、今年は主会場が高遠になる。城下まつりは例年どおりだと9月5日となるが、これがパラリンピックの開催期間中。9月22日は灯籠祭というようなことで、日程が混み合ってきている。委員の皆さんのご意見を伺いたい。

(支所長) 各団体や町内へもアンケートを実施している。9割以上の皆さんが、従前どおり第1土曜日で実施をしたいという結果であった。明日実行委員会が開催されるが、事務局からは予定通り9月第1土曜日で開催する案を提出する予定。

(会長) 地域協議会としても、例年通りという意見でよろしいか。

～異議なしとの声あり

(会長) 例年通りということでお願いしたい。

・ふるさと創生活動の承認について (三義地域おこしの会)

事務局

団体から申請書の再提出を受け、正副委員長審査の結果、承認されたことを報告。

・令和2年度伊那市協働のまちづくり交付金事業募集について

事務局

今月の市報発送時に回覧チラシを同送する。

(支所長) 先ほどの小委員会報告の件の中で、旧庁舎一部私有地があるという発言があったが、土地の所有者と用地買収の交渉を進め、昨年市が土地を買い上げることができた。今は旧庁舎の土地は市有地となっているので報告する。

## 7 次回日程について

次回日程は任期最後の協議会となる。開催日は3月10日(火)。委員提案提出期限は2月25日(火)。

## 8 閉 会 (午後8時17分)